

～養老町の未来の学校のあり方を考える～

<令和6年10月 養老町教育委員会事務局>

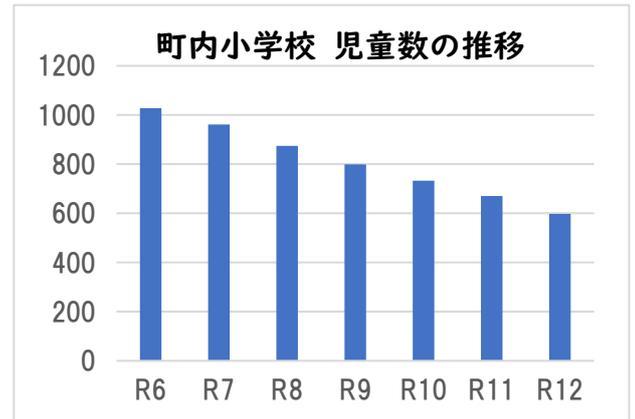
本町では、児童数の減少の推移を踏まえ、より良い教育環境の構築と質の高い学校教育の実現を目指し、本年6月に「学校のあり方検討委員会」を設置しました。将来を展望した学校のあり方について方向性を見出すため、幅広い見地から検討し、協議を進めています。

1. 児童数の推移と現状の課題

全国的に児童生徒の減少により少子化が進む中本町においても少子化の影響を受けています。

本町の小学校児童数は、令和6年度1,028名ですが、令和12年度には598名になる推移です。

現在、複式学級が編制されている学校が1校あり、今後も増加する見込みです。児童数の減少に伴う学校の教育環境を考慮し、児童生徒の思いや保護者・地域住民の願いを大切に教育を進めていくことが重要課題です。



2. 学校のあり方検討委員会の取組

1) 第1回学校のあり方検討委員会(令和6年6月4日開催)

将来の学校のあり方の方向性を見出すため、町教育長から諮問書が提出されました。

◆諮問事項・今後の児童数の推移を踏まえた小学校の適正規模・適正配置について
・それを踏まえた本町小中学校の学校の将来像について

【協議事項】(1) 学校の現状について(児童生徒数の推移について)
(2) 今後のスケジュールについて

2) 第2回学校のあり方検討委員会(令和6年7月30日開催)

【報告事項】・学校間交流の取組について情報提供

【協議事項】(1) 子ども未来シンポジウムの内容について
(2) 諮問事項(小学校の適正規模)について



学校のあり方検討委員会

3) 各地区行政懇談会における現状説明

各地区の行政懇談会において、学校の児童数の推移と学校のあり方検討委員会の検討内容及び今後の取組について情報提供しました。

3. 今、目の前の子どもたちへのアプローチ

◆複式学級に移行した学校への教員の配置や授業づくりの工夫

複式学級では、2つの学年が一つの学級として学習します。基本は、1人の教員が指導しますが、教科に応じ、県費非常勤講師や町支援員を配置し、学習効果を高めます。

◆小規模の学習集団に多様な学びの機会をつくるための工夫

学校間交流 の実施

<目的> より大きな集団の中で関わることで、多様な意見や考え方に触れ、学びを深める。

<内容> 2つの学校において同一学年同士で交流を行う。

- ・オンラインでの交流
- ・スクールバスを利用して互いの学校を行き来しての交流

<児童の感想>

- ・「新しい友達が増えてうれしかった。」
- ・「同じ学年の子の人数が増えてうれしい。」
- ・「交流した学校の校区の特色を知ることができた。」
- ・「良い刺激になって他の学校への興味関心が高まった。」



オンライン学習の様子



学校間交流の様子

4. 子ども未来シンポジウムの報告（令和6年9月21日開催）

【第1部】 先行事例、取組の発表

義務教育学校 大垣市立上石津学園

（背景） 児童生徒数の減少に伴い、小学校では、複式学級が拡大、中学校では、教職員定数の減少により教科の専門教員による指導が困難になる。

➡小学校4校、中学校1校を統合し、9年制の「義務教育学校」を設置

海津市立海津小学校

（背景） 小学校5校のうち、既に3校において複式学級が編制されている。

今後も複式学級が固定する見込み

➡複式学級の回避・解消に向けた対応が必要

1学年が2学級以上で編制される規模が「望ましい学校規模」と考え、5校すべての小学校を組み合わせる「新統合方式」とした。

※養老町教育委員会においても、本町の児童数の推移、学校のあり方検討委員会の取組、学校間交流の取組などについて発表しました。

【第2部】 パネルディスカッション

安田和夫教授（岐阜聖徳学園大学教育学部教授、学校のあり方検討委員長）をコーディネーターとしてお招きし、5人のパネリストとともに、本町の学校のあり方についてディスカッションしていただきました。

ディスカッションされた内容

- ・めざす学校の姿について
- ・学校の統廃合の経緯
- ・学校の特色や伝統の継承について
（各学校の伝統をどのように引き継いだか）
- ・学校運営について（統合して子どもたち、保護者、先生はどう変わったか。スクールバスについて）



パネルディスカッションでは、上石津学園や海津小学校の事例、本町の学校の現状を踏まえ、今、目の前の子どもたちのためにできることを考え、本町がめざす将来の学校像について、参加者の皆様から意見をいただき、会場全体が一体となって考える有意義な会となりました。

◎シンポジウムを終えて、参加者の皆さまからいただいた感想、ご意見を一部ご紹介します。

<保護者からの意見・感想>

- ・いろいろ話が聞けてとても勉強になった。統廃合は、真剣かつ慎重に進めていかないといけないと思う。
- ・小規模でのメリットもあると思うが、やはり少なすぎるのもどうかと思う。子どもたちにとって学びやすく楽しくすごせる未来があることを願います。
- ・これからどのような学校の形にしていくのか、家族、子どもと話し合っていきたいと思う。
- ・統合は待たなしの状況であることが分かった。早めの結論を期待したい。
- ・危機感をもって、喫緊の課題としてとらえ、課題解決に向けた取組をお願いしたい。

<地域住民からの意見・感想>

- ・統廃合することがめざす学校像のように感じた。統廃合しなかった実例も聞きたかった。
- ・このような機会を何回も開催し、地域における開催も必要と思われる。
- ・広く町民に考える機会を提供できたことは成果。じっくり考えなければいけないが、子どもたちの未来のためにも早く方向性を決め、具体的に進めてもらいたい。
- ・学校のあり方を検討することは、併せて町全体のめざすまちづくりを明確にし、町民と共有することを同時進行させることが必須だと思う。

<教職員・保育士からの意見・感想>

- ・子どもたちのためにどうしていくかを考えるベースとなる考え方のヒントを具体的に示してもらえた。先の見えない不安がある程度解消されたのではないかな。
- ・「現実を直視する」という言葉が印象に残った。子どもの将来を考え、夢のある学校生活を送ってほしいという思いになった。
- ・子どもたちが笑顔で安心して楽しく過ごせることを考え、みんなで丁寧に議論しながらつくっていくことが大切だと思った。
- ・若い世代の願い、期待感、夢を大切に、精一杯サポートする側になりたい。

<役場職員の意見・感想>

- ・子どもファーストで進めていけるとよいと思う。
- ・どういう町をつくるか、めざすかが大事。子どもの未来を考えることは、町の未来を考えることと直結していると改めて感じた。
- ・子どもたちがよい刺激を受けながら学びが深まっていく学校になってくれることを願う。

5. 学校の統廃合をしない取組事例の紹介

子ども未来シンポジウムでは、「義務教育学校」や「新統合方式」の例をお伝えしましたが、参加者のご意見の中にあつた「統合しない」取組事例も紹介いたします。

◆山県方式とは…

岐阜県山県（やまがた）市において、市立小中学校12校の統廃合をせず、お互いの学校をスクールバスを利用して児童生徒が行き来をし、小規模校が連携する取り組み

<内容>

小規模校の個に応じたきめ細かな教育と中規模学校の切磋琢磨する教育の「いいとこ取り」を志向した新たな教育システムです。小規模校同士の連携を緊密にし、少人数授業が効果的な教科については、従来の形（自校）で行い、多人数のほうが効果的とされる対話的学習（体育、音楽、英語など）については、複数の学校の子どもが合同学習を行います。また、オンライン授業が可能な教育環境が整備される中、市内小中学校12校と山県市こどもサポートセンター（不登校等の居場所）、地元の山県高校を連携校とした「山県学園」を形成し、リアルな教育（対面型）を基本にしたカリキュラムを展開しています。

<効果>

- ・学校を維持することで、教員数を減少させることなく、小規模校ではできない小学校教科担任制など多様な教育活動が可能になる。
 - ・地域の教育力が維持され、子どもたちに「学校=ふるさと」のアイデンティティを醸成させる。
 - ・地域の伝統芸能の活動に、校区内の小中学生が参加したり、小学生の放課後勉強会の講師を校区の中学生が務めたりするなど、多様な学びの場が生まれる。
- ➡ 提案型の議論を重ね、お互いに夢を語り、受容しあえる関係性の構築が重要

6. 今後の計画

1) 今後の学校のあり方検討委員会の取組について

- ① 学校のあり方検討委員会では、学校の適正規模についての意見交流・検討を行ってまいります。（統廃合ありきではなく、小規模校を残す案も含めて検討いたします。）
- ② 学校のあり方に関するアンケート調査の内容についても検討いただきます。

2) アンケート調査について

無作為抽出による住民アンケート、保護者アンケート、教職員・保育教諭アンケート、児童生徒アンケートを実施してまいります。本町の児童数の推移や各市町の取組を情報提供し、よく知っていただいたうえで、アンケート調査を実施し、本町の学校がどうあるべきかをアンケートし、結果を公表してまいります。

学校のあり方検討委員会では、本町のめざす将来の学校の将来像について、今、大人が真剣に考え、養老で子育てしてよかったと思える学校にしたいと考えます。みんなが当事者として考えたといえる「話し合い」を広めたい思いで、未来ある子どもたちのために願う学校像を明らかにしてまいります。安心して楽しく期待感がもてる教育環境の構築をめざしてまいります。